



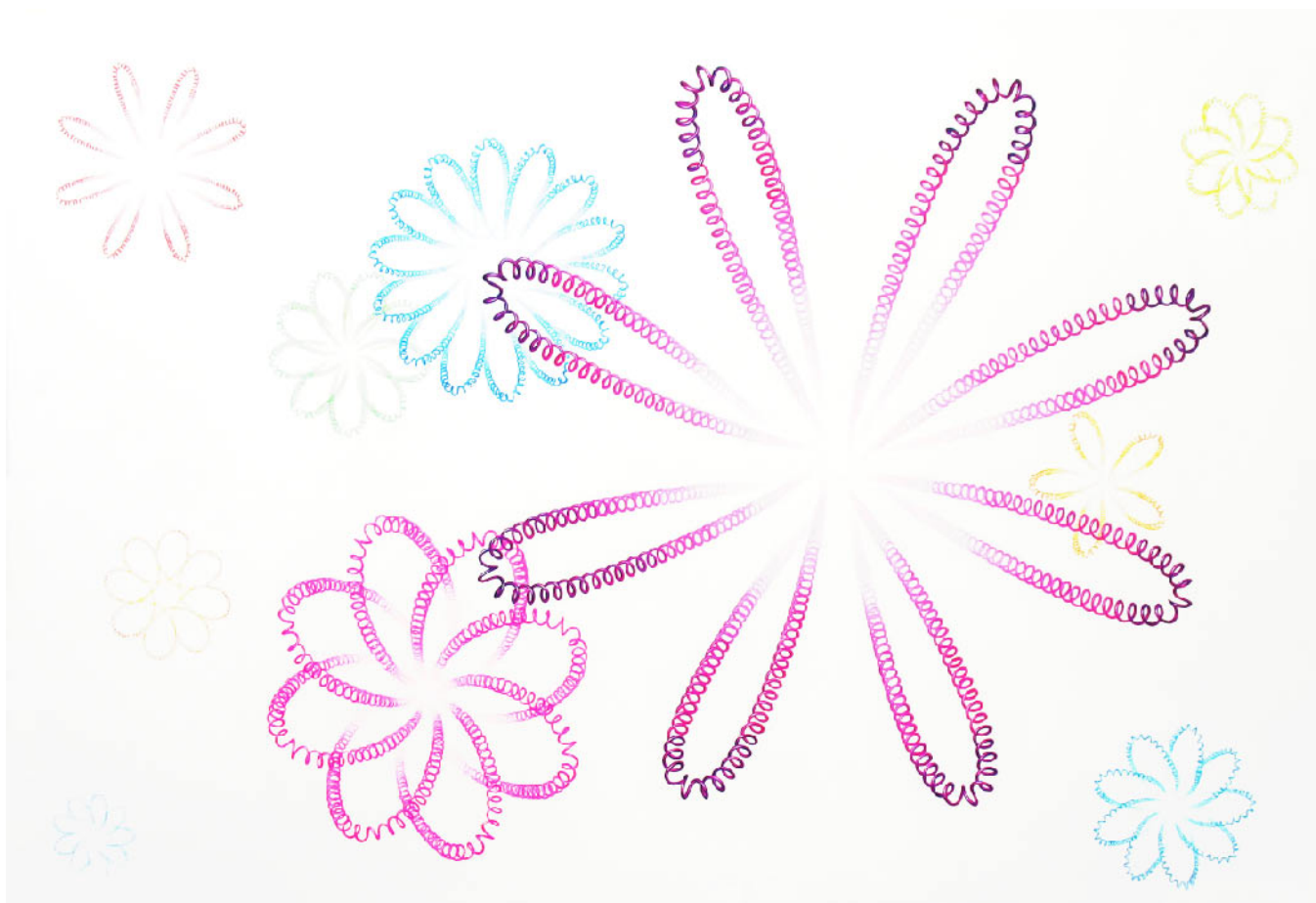
松崎宏史個展 『Studies on Everyday Flow-ers』

ゲストキュレーター 宮崎申太郎

2009年3月6日(金) - 3月18日(水)

日曜休廊 11:00 - 19:00 最終日17:00終了

このたび、マキマサルファインアーツでは、ドイツ(ベルリン)と日本で活躍するアーティスト、松崎宏史の個展を開催します。松崎の作品は、真っ白い支持体に鮮やかな花をペイントした美しい作品です。同時にその花は、現代の情報ネットワークシステムの暗喩であり、高度に管理化された社会に漂う作家の意識の具現化です。ゲストキュレーターとして、同じくベルリンで美術評論・サウンドアーティストとして活躍している宮崎申太郎を迎えます。ぜひご紹介ならびにご覧いただきたく、ここにご案内申し上げます。



「Flowers in a white room」2007 220x150cm キャンバスにアクリル

「Studies on Everyday Flow-ers」～松崎宏史の作品について～

今日我々は、モバイル・テレコミュニケーションの時代に生きており、近い将来、知能化された目に見えない小さなものたちがネットワークで繋がれ、日常生活をサポートし管理するようになるだろう。

伝統的な西洋絵画を学びながらも、アクションスクリプトやプロセッシングのようなグラフィック・プログラミング言語も独学した松崎の「螺旋状の「Flow-ers」は、我々の置かれた現状への客観的なメタファーだ。彼はカモフラージュされたメディアアーティストである。

「Flow-ers」は、二つの意味を含む。flow【=フロー、(電気・情報・データが)通る、川・水・液体が(…から)…へ流れる】とflower【=花】である。

心理学者のミハイ・チクセントミハイによると、「フロー」とは人間がひとつの活動に深く没入している時、時間が瞬間に流れて行くように感じる、意識と知覚の状態をいう。電車やバスでの移動中に、ヘッドフォンをしたり、本、携帯電話、ゲーム機などを手にしながら、この「フロー」の状態にある多くの仲間を、我々は目にする事ができる。彼らが使っているそれらのメディアテクノロジーを介した情報伝達のプロセスもまた「フロー」と呼ぶことができる。情報技術者たちは、それを「データフロー(データの流れ)」という。

情報のフローは自然に起きているように感じるが、そうではない。それは簡単に繋がることが出来るようにみえるだけで、様々な因子の働きによるものである。その存在は普段は認識されることがない。まるで世界中が強制的にひとつの情報回線にまとめられているかのようで、それによって限られた少数の権力者が世界中をコントロールしている。松崎は、その真実をただ直接的に批判するのではなく、メタファーとしての花のようなスパイラルを提示することにより、鑑賞者にそのことを考えさせるのである。

彼の描く花のようなスパイラルには、吸い込まれるようなエネルギーがある。花は、ケーブルから作られているように見え、少し前まで存在していた古い電話機の受話器を繋ぐ螺旋状の線を思わせる。そして、絵が物体となり、空間となり、チャンネルとなる。同時に、その空間は他の世界への接点であり、チャンネルはあちら側に繋がっている。それは、壁の反対側か、地球の反対側だろうか。

松崎は、コンピュータの中に記号として存在するグラフィックを現実の世界に描き出す。象徴的なサイバースペースからキャンパスの現実の物質性への再送信を実行するのである。松崎はメディアであり機械である。しかし、それは人を困惑させるような機械ではなく、非常に友好的な機械なのである。彼は、因数で機能してる人間デジタルアナログ変換器なのだといえるかもしれない。19世紀の西洋では、その因数を哲学者はジーニアス(天才)と名づけていた。

宮崎申太郎(キュレーター、サウンドアーティスト)



「Flower in a white room」2007 200x180cm キャンバスにアクリル

「よーこそ!」は、マキマサルファインアーツ2009年のシリーズ企画展です。毎回異なるゲストキュレーターの方に作家を紹介いただき、新しい風や再発見の驚きを、ギャラリーと現代美術界に吹き入れていただくことを目的としています。



松崎宏史個展 『Studies on Everyday Fw -ers』

ゲストキュレーター 宮崎申太郎

2009年3月6日(金) - 3月18日(水)

日曜休廊 11:00 - 19:00 最終日17:00終了

松崎宏史 Hirofumi Matsuzaki

現代の高度に情報化された社会の中で、自分がいつの間にか、誰かによって作られたシステムに組み込まれていたり、管理されていることへの驚きや戸惑いが、私にはある。その空気のように目に見えない存在となりつつあるシステムを、絵画という古典的な手法を使って可視化することに興味がある。持つことのない質感を与えることにより、その存在を逆説的に強く意識させることができると考えるからだ。

【略歴】

- 1979 福岡県に生まれる
- 2003 広島市立大学美術学部油絵科卒
- 2004-05 Guest studentとしてハノーバー専科大学版画科

【個展】

- 2009 マキイマサルファインアーツ (東京, 日本)
- 2007 ギャラリー バッシュハウス(ベルリン, ドイツ)
- 2005 ギャラリー ネプロサ (ハラバ, メキシコ)
- タハレス ノイエギャラリー (ベルリン, ドイツ)
- ギャラリー ファンゴ (ロットブス, ドイツ)
- 2003 ネットギャラリー (広島, 日本)



「Triangular Explosion」 2008
50x50cm キャンバスにアクリル

【グループ展】

- 2009 ジェネラルパブリック "ubiquitous oscillations" (ベルリン, ドイツ)
- ギャラリーアトリエ "通りと広場<トランジット>展" (福岡, 日本)
- 2008 ギャラリー ボーン+ブッセ "Geld spielt keine Rolle" (ライプツヒ, ドイツ)
- ミュージアム レンダバ "14.LindArt international Artist Colony" (レンダバ, スロベニア)
- ギャラリー ラ・コンディション ジャポネーズ "Show me the way" (ベルリン, ドイツ)
- Stichting Art & Performance "De Schildersweek" (ドンブルク, オランダ)
- ギャラリー 89 "group show" (パリ, フランス)
- ギャラリー ボーン+ブッセ "Hirofumi Matsuzaki x Kerstin Heymann" (ライプツヒ, ドイツ)
- ジェネラルパブリック "2 x Three Beauties - The Charites" (ベルリン, ドイツ)
- ギャラリー バッシュハウス "Psycho Berlin" (ベルリン, ドイツ)
- 2007 ギャラリー 89 "@out" (パリ, フランス)
- ギャラリー F92 "Asian Pacific Woche" (ベルリン, ドイツ)
- クンスト ハレ ECC "Runde2" (ベルリン, ドイツ)
- ギャラリーイマジンハウス (福岡, 日本)
- 2006 ギャラリー バッシュハウス "松崎宏史 x 中村亮一" (ベルリン, ドイツ)
- ギャラリー 731 "9931展" (広島, 日本)

【受賞】

- 2007 クンストプライス BSA
- 2003 広島デザイン賞 優秀賞

【アーティスト・イン・レジデンス】

- 2009 Artist in Residence Kröms (クレームス, オーストリア)
- 2008 LindArt international Artists Colony (レンダバ, スロバニア)
- De Schildersweek (ドンブルク, オランダ)
- 2005 ギャラリーネプロサ (ハラバ, メキシコ)
- 2004-05 アーティストハウス タハレス (ベルリン, ドイツ)

キュレーター 宮崎申太郎

1980年ベルリン生まれ。
アート・パーゼルで有名なスイスのパーゼルで育つ。コンテンポラリー・ジャパン・カルチャーのネットワーク「ラ・コンディション・ジャポネーズ」の創設者。ベルリンにおける若手の芸術と音楽のキュレーションを担当。ベルリン・フンボルト大学のメディア研究のセミナーでは、博士課程として、メディア論、デジタル・テクノロジー、そして哲学を専攻する。その傍ら、自らサウンドアーティストとして活動。

<開催概要>

【会期】2009年3月6日(金)~3月18日(水)
11:00~19:00 最終日17:00まで(日曜日休廊)

【会場】マキイマサルファインアーツ
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-7-7
tel/fax 03-3865-2211URL
<http://www.makiimasaru.com>

【展示】平面作品 大小約20点

【問合せ】マキイマサルファインアーツ 木股・佐藤
E-mail makiimasarufinearts@fuga.ocn.ne.jp